

震災・医学・医療に関連する商業紙報道の見出し・概要（平成23年8月1日～8月31日）

東日本大震災

		新聞	掲載面	掲載日
労災	宮城労働局は宮城、岩手、福島の前3県で労災保険申請が1535件に上るとした。自然災害による労災保険の給付規模は過去最大となる見通しである。	読売	1面	8.17
仮設特養整備	厚労省は被災地の特別養護老人ホームや介護老人保健施設などを仮設で整備する場合も補助金を出すことを決めた。厚労省によると宮城県、岩手県、福島県で高齢者施設52件が全半壊していることが分かっている。	読売	2面	8.17
被災者	岩手医科大グループが岩手県沿岸部の住民約1,400人(平均65歳)を調査したところ、約6割が高血圧状態であることが分かった。ストレスや運動不足、塩分過多の食事などが原因と見られる。	読売	32面	8.3
放射線	被ばく線量が年間1～20ミリシーベルト地域では市町村が除染計画を作成し、国が実施を支援することを政府が原子災害対策本部で決定することが分かった。年間1ミリシーベルト以下の地域では「面的な除染は必要ない」とする一方、側溝などは状況により除染する方針を盛り込んだ。	山日	3面	8.25
放射線	政府は小中学校や幼稚園での屋外活動制限の放射線量を毎時3.8から1マイクロシーベルトと引き下げた。3.8マイクロシーベルトは8月までの暫定数値であったうえ、最近では福島県内でこの基準を超える学校はなくなっていた。	山日	3面	8.25
放射線	千葉県千葉市の農家1戸の使用した木くず(堆肥)から1kgあたり968ベクレルの放射性セシウムが検出された。木くずを出荷したのは県内の製造業者で、主に県内で集めたものだという。千葉県庁は他に流通していないか調査している。	読売	30面	8.24
放射線	千葉県千葉市で日本初の被ばく医療研修会が米エネルギー省放射線緊急時支援センター研修施設、放医研、IAEAの共催で開かれた。研修には消防関係者や医師、看護師ら24人が参加する。	読売	30面	8.24
国境なき医師団	国境なき医師団の先進国への出動は東日本大震災が初めてだったと言う。大震災では即座に6人のチームが宮城県に入った。	山日	9面	8.16

放射線	東京大アイソトープ総合センター長は原発事故から放射された放射性物質量は広島に投下された原子爆弾20～30個分と算出した。対策には2～3年を想定した随時立法と信頼できる委員会の設置が必要と言う。	読売	2面	8.13
教育	岩手県陸前高田市で千葉大生32人が夏休みの間「寺子屋千葉大」を開き、中学生らの学習指導をしている。ボランティアの学生は法経学部の集中講義として、単位も取得できる。市内の塾が津波で流され、学習支援での貢献を図った。	千日	1面	8.2

官公庁

高速道路病院直結	厚労省が東日本大震災の復興に向け、病院直結で救急搬送できる緊急退出路の高速道路などを整備することが分かった。財政事情を配慮しつつ三陸3路線の高速道路機能強化をはかる。	信毎	1面	8.25
受動喫煙防止条例	神奈川県では受動喫煙防止条例が施行されて1年を迎えた。県の対策課によると学校や病院などの公共施設では99%が禁煙となり、飲食店では約80%が禁煙・分煙の対応が済んだという。2011年3月にファイザーが行ったネット意識調査では県内在住者の87.3%が条例を指示した。喫煙者でも58.8%が賛成票を投じた。	山日	7面	8.22

大学・教育施策

節電	電力使用制限令に基づき、各大学が節電活動に取り組んでいる。慶応大では図書館に緑のカーテンを設置したり、日本大学では実験設備の使用を早朝や夜に変更するなど各大学で積極的な活動が行われている。	読売	夕・12面	8.13
----	--	----	-------	------

病院の経営

医師不足	長野県岡谷病院と健康保険岡谷塩嶺病院を統合し、2015年の開院を目指す新病院だが、常勤医不足が重い課題となっている。	信毎	4面	8.23
がん拠点病院	国立がん研究センターがまとめたがん診療連携拠点病院について病院ごとの2008年の新規患者に行った治療実績が公開された。新規患者が最も多かったのは8,600人でがん研有明であった。部位や治療法では地域格差があり、各々の病院の違いが浮き彫りとなった。	読売	13面	8.23

経営	長野県岡谷市の市立岡谷病院と健康保険岡谷塩領病院を統括経営する市立病院事業の2010年度の決算見通しは4,000万円程度の赤字である。当初は8,700万の見込みであったが、看護師の配置基準の引き上げや外科部門充実による診療単価増で赤字の削減が実現した。	信毎	29面	8.5
経営	県庁は2010年度の千葉県病院事業の純利益が17年ぶりに黒字へ転じたことを発表した。医師や看護師の確保で診療体制が充実したことや、入院・外来単価が増えたことなどが黒字へ繋がったと言う。	読売	京葉版	8.12
経営	千葉県我孫子市柴崎台の診療所ケアナーシングワイズで節電対策と停電リスクを考慮し、診療を午前5時半からにずらすスーパーサマータイムを導入した。スーパーサマータイムは7月中旬～8月31日までだが、出勤前の会社員らで導入前と変わらず予約はいっぱいとなった。	読売	京葉版	8.9
経営	千葉県中央区のJEE健康保険組合川鉄千葉病院がセコムグループ系医療法人に経営移譲するけ契約を結ぶことが分かった。セコム側は周辺に介護老人保健施設を整備する構想もあり、既にJEFグラウンドも取得し、介護老人保健施設を整備する予定であると言う。	読売	京葉版	8.10
病院の実力	読売新聞社調べ千葉県慢性頭痛の治療実績一覧表を公開した。千葉中央メディカルセンターの専門医は慢性頭痛は患者の生活習慣に起因することが多いと言う。治療法としては悪い習慣に気付かせるための「頭痛ダイアリー」や朝晩の軽い運動などである。	読売	30面	8.7
病院の実力	読売新聞社調べ全国慢性頭痛の治療実績一覧表を公開した。慢性頭痛には「片頭痛」（治療薬：トリプタン）、「緊張型頭痛」（治療薬：鎮痛薬）、「群発頭痛」（治療薬：酸素吸入・トリプタンの自己注射薬）がある。慢性頭痛の場合、薬の過剰摂取で、かえって頭痛の頻度を高くする薬物乱用頭痛にも注意が必要である。	読売	17面	8.7

再生医療

iPS	京都大の研究グループがiPS細胞から精子を作り、健全なマウスを誕生させたことを米科学誌セル電子版に発表することが分かった。iPS細胞をタンパク質と薬剤で培養し、別のタンパク質の刺激を与え、生殖細胞を作製した。受精卵から子どもが生まれた割合は約3割で、ES細胞の約3～5割とさほど変わりがなかった。	千日	22面	8.5
特許	iPS細胞の作製技術に関する特許が米国で成立した。非営利機関には無償で技術を提供し、営利機関からは特許料を設定する方針である。	読売	1面	8.12

iPS	iPS細胞を使用した臨床試験が加齢黄斑変性症では2年後、脊髄損傷では5年以内に実施される可能性が高い。加齢黄斑変性症の臨床の開始を目指すのは理化学研究所発生・再生科学総合研究センターの研究チームである。現在、カニクイザルでの実験を行っており、10か月経過しても良好だという。	読売	24面	8.28
iPS	iPS細胞から精子を作り健全なマウスを誕生させることに京都大学の研究グループが成功し、米科学誌セル電子版で発表する。	読売	1面	8.5

産科・小児科

再発乳がん薬	再発乳がん治療薬「ハラヴェン」(エーザイ)が国際臨床試験で患者生存率を平均2.7ヶ月延ばすことに成功した。日本でも80人に治験して、ほぼ同様の結果が得られた。「ハラヴェン」は神奈川大学教授が三浦半島沖で採取したクロイソカイメンのハリコンドリンBが基となっている。米ハーバード大でハリコンドリンBの合成に成功し、エーザイが成果を引き継いだ。「ハラヴェン」は微小管伸長のみを阻害する。副作用の症例も報告されており、使用には薬物療法の経験を積んでいる医師が望ましい。	千日	6面	8.7
プール熱、手足口病	千葉県で咽頭結膜熱(プール熱)と手足口病が過去5年で最多の患者数を記録した。県内135医療機関で7月10~17日の1週間に196件に上った。	千日	1面	8.7

治療・治療薬

TMS治療	東京病院で、2010年6月~2011年4月までに脳卒中による身体まひの患者35人(発症後平均4.8年)が「経頭蓋磁気刺激治療(TMS治療)」を受け、全員に効果が表れていた。TMS治療は慈恵医大が開発しており、左右の脳のうち健康な側の活動を磁気の刺激で抑制し、損傷を受けた側の機能を引き出す。磁気刺激は毎秒5回以上の刺激では脳活性し、1回以下だと活動抑制に繋がる。	山日	7面	8.22
骨粗しょう症のバルーン手術	エックス線透視装置で見ながら、ドリルで椎体に穴をあけ、骨折でつぶれた椎体内でバルーンを膨らませ、隙間作製後に粘度の高いセメントを注入する。従来のセメント注入法より漏れがない。バルーン手術は骨折から時間がたっておらず、且つ腰が曲がっていない患者が対象である。今年1月より保険適用となっている。	読売	夕・9面	8.4

ジェネリック	日本国内で出荷された医療医薬品に占めるジェネリックの割合（数量）は2割程度で、米国などの7割と比べまだ低い。日本ジェネリック医薬品学会代表理事は、理由として「根拠のない拒否感が根強い」とした。	読売	18面	8.29
腫瘍崩壊症候群薬	腫瘍崩壊症候群は白血病やリンパ腫で発症することが多い。予防の一手段に新薬「ラスリテック（商品名）」が登場した。有効率はほぼ100%、化学療法の直前に1日1回点滴することで、血漿中の尿酸を直接分解する働きがある。	信毎	14面	8.5
リウマチ薬	関節リウマチの診断基準が見直され、生物学的製剤の早期投与により治癒の可能性も出てきた。生物学的製剤は5種類が販売されている。点滴：レミケード、アクテムラ、オレンシア。皮下注射：エンブレル、ヒュミラ。	山日	7面	8.22

情報科学

徘徊感知器	NPO諏訪圏ものづくり推進機構医療・ヘルスケア機器研究会は発信器付きの小型タグを利用者に携帯してもらい、無断外出や徘徊を本体で感知し、警報機の音と光で家族などに知らせる装置を開発した。日岐光学で1セット69,800円で購入できる。	長日	9面	8.25
-------	---	----	----	------

遺伝子・医工学

NK細胞新培養	バイオベンチャー「テラ」と九州大は免疫細胞の一種「ナチュラルキラー細胞（NK細胞）」の酵素活性を約4～10倍に高めたり、数百倍にも培養できる技術を開発した。「テラ」ではNK細胞を約6千倍に大量培養する方法も開発しており、これらの技術を組み合わせNK細胞を体外培養し、体内に戻す免疫療法の実用化を目指している。	山日	7面	8.22
高血糖とがんリスク	高血糖の人はがんで亡くなる確率が高いことが、福岡県久山町に住む約2,400人（40～79歳）の19年間による追跡調査で分かった。空腹時血糖値100mg/dl未満を1とすると、血糖値110～125以上は1.9倍、126以上では2.1倍となった。余分なブドウ糖を代謝しようと活性酸素が過剰に増え、遺伝子を傷つけ、がん化させる。インスリンにはがんの進行が早まる危険性も否定できない。	読売	夕・9面	8.4
神経形成物質	大阪のバイオサイエンス研究所や名古屋大、京大のチームが、mRNA「miR-124a」による海馬の神経経路や網膜の神経形成への影響を解明し、米科学誌ネイチャーニューロサイエンス電子版で発表した。チームはマウス実験で「miR-124a」を働かなくすると、本来なら成熟とともに働かなくなる「Lhx2」が作用し続け神経回路の異常に繋がると言う。	産経	24面	8.22

デング熱	豪クイーンズランド大の研究チームが蚊の共生細菌「ボルバキア」に着目し、病原ウイルスを抑制する方法を米科学誌ネイチャーに発表した。ウイルスを抑制するショウジョウバエの「ボルバキア」をネッタイシマカに注射することにより、ウイルスを抑えた蚊の増殖に成功した。	読売	35面	8.25
糖尿病	東京大学生産技術研究所と技術研究組合「BEANS研究所」などがブドウ糖の濃度に応じて光る強さが変化する特殊チューブをマウスで4ヶ月以上測ることに成功した。	山日	4面	8.2
糖尿病	熊本大学の研究グループが2型糖尿病について「CDKAL1」の遺伝子に変異し、インスリンの分泌を妨げていることを発見した。アジア人の約4人に1人で変異が確認できたが、欧米人では約1割であった。マウス実験では肥満でなくても糖尿病にかかることを確認した。	信毎	26面	8.17
内視鏡手術ロボット	千葉県がんセンターは内視鏡下手術用ロボット「ダヴィンチ」を千葉県内で初めて導入し、前立腺全摘手術で使用を開始する。「ダヴィンチ」では開腹手術に比べ切開創が小さく患者への負担が少ない。さらに、ロボットアームが医師の指の動きに連動する仕組みのため、一定の研修を受けた医師ならば誰でも手術ができるようになるという。	千日	1面	8.21
熱中症遺伝子	徳島大と東京医科大の研究チームが熱中症患者は「CPT2」型遺伝子を持つことが多いことを突き止めた。東京医大病院に運ばれた40度の高熱、意識障害または熱痙攣の重篤な熱中症患者11人のうち、5人が「CPT2」型であった。「CPT2」型遺伝子を持つ患者には早めの手当で40度以上の高熱にしないことが重要であるという。	読売	29面	8.2
盲視	自然科学研究機構生理学研究所の研究グループが中脳の「上丘」部分が「盲視」の現象に関与していることを発表した。「盲視」とは大脳の視覚野損傷を受けた人が、見えないはずの視野にある物の位置を正しく言い当てる現象である。研究グループは「上丘」の機能を使い、視覚機能の一部を取り戻せる可能性があるとみている。	信毎	7面	8.22

高齢者・介護

リハビリ	千葉県旭市の老人保護施設シルバーケアセンターでは、集団リハビリを始めた昨年11月以降、在宅復帰率が上昇し、今年1～6月の在宅復帰率は60%台にも上った。全国でも集団リハビリによる在宅復帰率は平均約30%もある。集団リハビリは個別リハビリだけでは不十分な訓練量の確保に適している。しかし、老健施設でのリハビリは通常、介護報酬の加算がある個別リハビリが中心となる。	読売	14面	8.1
------	--	----	-----	-----

読者投稿

医工学	医工連携を図ることで治療の利点を増やせるが、その一方で医学と工学の両分野の専門家には連携の必要性が十分に意識されていない。各々の研究に高いプライドを持っており、相手の使う専門用語を理解しようという心がけが十分ではない。医工連携で新しい時代を作りだせると信じている。（聖マリアンナ医科大学特別顧問）	読売	13面	8.17
医薬品輸出	世界一の健康長寿国という事実や日本食のヘルシーというイメージは日本の最大の強みであるから、健康増進や寿命の延長をも視野に入れた日本製薬は今後の日本経済成長の鍵となる。（立命館大学教授・内科医）	読売	12面	8.9
産科医療補償制度	産科医療補償制度で補償対象となった108件を専門家が分析したところ、胎児心拍数の確認など出産の安全管理が不十分であったり、新生児蘇生法に問題があったりするなど防止策を講じる余地のある事例も出てきた。まだ制度自体が信頼を獲得できていない面もあり、補償金だけで解決しようとするのではなく真摯な事故対応が求められる。（読売新聞医療情報部）	読売	13面	8.31
成人T細胞白血病	支えてくれる家族や友人、前向きな気持ちで闘病を支えた。闘病生活を生かし、病気になった意義を考え、難病対策に取り組んでいく。（慶応大学教授）	読売	17面	8.1
ロコモ	超高齢社会を迎え、50歳以降に障害が出やすい運動器の耐用年数を伸ばすことが不可欠になっている。50歳以降になると大腿骨頸部骨折、脊柱管狭窄症、変形性膝関節症など歩行が困難になる疾患が増える。運動器の障害対策の対策に2007年日本整形外科学会が「ロコモティブシンドローム（運動器症候群、ロコモ）」を提唱した。ロコモ対策は認知症、メタボ対策にも欠かせない。（国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局長）	読売	12面	8.24

症状相談

胆のうの手術痕	最近では単孔式腹腔鏡手術「SILS(シルス)法」が行われ始めており、へその部分を1か所、縦に2cm程の痕が残る。SILS法は翌々日の退院も可能で負担も軽い。ただ、現状ではどの病院でも受けられる手術ではない。	山日	13面	8.4
---------	---	----	-----	-----

ミス・事件・訴訟

AED危惧不備	秋田県能代市の消防署がAEDの電極パッドを救急車に搭載し忘れ、70代女性を搬送していたことが分かった。隊員は心臓マッサージをしたが女性は搬送先で死亡した。同署はAEDの不備と女性の死亡の間に因果関係がないと病院から説明を受けたと言う。	読売	33面	8.12
---------	---	----	-----	------

MRI検査の麻酔事故	日本小児科学会医療安全委員会の昨年8～10月の調査（520病院対象、回答率80%）により、MRI検査時に何らかの合併症を経験した小児科専門医研修施設は35%、そのうち呼吸停止を経験した施設が18%に上った。それにも関わらず、呼吸や心拍などのデータを継続して取っていない施設は80%もあり、今後の監視体制の指針が必要となってきた。	読売	33面	8.12
O157	千葉県千葉市内の7歳の男児がO157による溶血性尿毒症症候群（HUS）と診断された。O157の感染症は今年に入り、96件目だが、HUSの感染は今年初めてとなった。	読売	京葉版	8.9
医療事故	2010年に日本医療機能評価機構（東京）に報告された医療事故は2703件で、2005年以降最多となった。投薬量の間違い、透析患者に投与する薬のミス、歯がほとんどない患者に通常の食事を与えて窒息を招いたケースなどがみられた。ヒヤリハット事例は医療機関で約56万件、薬局では1万2904件であった。	千日	19面	8.31
看護助手の爪はがし	東京都の看護助手が80歳の入院患者の爪をはがし、再逮捕された。2004年にも別の病院でも同様の事件を起こしており2度目の逮捕となった。看護助手は「ストレス」を要因にあげ、容疑を認めている。	読売	39面	8.26
虐待	東京都、里親宅で当時3歳の女児が転落死した事件は、里親の虐待死の疑いがでてきた。警視庁は、現場に女児の皮膚片や擦過傷がなかった一方、顔全体に転落が原因と思われる内出血の痕があり、里親が転落事故を偽装した疑いがあるとみている。	読売	35面	8.22
虐待	千葉県柏市で2歳児が餓死した。8歳の次女は8キロしかなかった。市の職員は家庭訪問をしたが会えたのはわずか1度であった。柏署は両親を保護責任者遺棄致死容疑で逮捕したが、両親は容疑を否定している。	読売	京葉版	8.10
差別	NIH（米国立衛生研究所）は黒人のNIHの研究費獲得率が白人より10ポイント以上も低いことを米科学誌サイエンスに発表した。2000～2006年の審査を分析した結果、白人研究者は29%、黒人研究者は16%の獲得率であった。もともと黒人は米国人人口の約13%で、研究者自体も少ないが、NIH側は「無意識の偏見」の可能性もあるとし、是正措置の検討を始めた。	読売	6面	8.19
産科医療補償制度	日本医療機能評価機構は「産科医療補償制度」により2009年の初年より208件を審査し、192件の補償を決めたことを公表した。陣痛促進剤の過剰投与や不十分な心肺蘇生処置の例が相次いだため、機構は医療機関に注意喚起した。	読売	1面	8.17
歯科/インプラント	警視庁は2007年にインプラント手術中に下顎の動脈を切断し、出血死させた疑いで東京の歯科医院院長を書類送検する方針を固めた。院長は容疑を否定しているが、警視庁は救命措置が不十分などで過失があると判断した。	読売	31面	8.1
新薬	厚労省は今年3月発売の新薬「プラザキサカプセル」（血液凝固阻止剤）を服用した患者5人が死亡したことを受け、発売元の日本ベーリンガーインゲルハイムに使用書に警告欄を設けるよう指示した。厚労省は納品先の医療機関に情報提供するようにも指示をしている。	読売	28面	8.13
鳥インフル	農水省が2010年11～2011年3月に宮崎県など9県で発生した鳥インフルの感染ルートは「渡り鳥」の可能性が高いとする報告書をまとめた。	読売	35面	8.25

認知症	千葉県流山市で認知症の妻（当時90歳）を絞殺した無職の男性（87歳）に懲役3年、執行猶予5年の判決が下った。裁判員は男性の行動を「独りよがり」としながらも、精神的に追い詰められた心情は同情の余地があったとした。男性は男性自身も要介護認定を受けたいが、娘や専門家に相談していなかった。事件当日、男性は妻にお茶を入れてくれるよう頼んだが反応がなく、「もう限界だ」と落胆し絞殺した。	読売	京葉版	8.11
熱中症	消防庁の調査で、8月8～14日の間で救急搬送された人は全国で7,071人、死者15名であることが分かった。1週間での死者は千葉と静岡で各4名、青森で2名であった。同1週間は気象庁の観測点の7～8割で気温30度を超えた真夏日であった。	読売	1面	8.17
熱中症	5月30日～7月31日に熱中症で救急搬送された人は2万4790人に達し、前年同期より約3,600人上回った。消防庁調査	産経	27面	8.3
ノルウェーテロ	ノルウェーで爆弾と銃乱射で逮捕された容疑者が日本人医師に精神鑑定を要求していたことが分かった。容疑者は日本人は本質的に名誉を理解しており、欧州の専門家より自分を理解できると考えていると言う。	読売	夕・2面	8.4

HP・サイト

ジェネリック	日本ジェネリック医薬品学会が運営するジェネリック医薬品データベース 患者さんの薬箱： http://www.generic.gr.jp/ かんたん差額計算： http://www.jga.gr.jp/easycalc/	読売	24面	8.31
--------	--	----	-----	------

医学・医療一般

顎義歯	がん研有明病院では発音やのみ込みの機能を細かく評価し、顎義歯の調整をする。同病院口腔外科の医師は顎義歯は定期的な調整と、継続したリハビリが有効であると言う。	読売	17面	8.24
うつ病	グラクソ・スミスクライン社（東京）がうつ病と向き合う中で支えとなった「ことば」集を作成する。周囲の「ことば」は治療の後押しとなるとして、グラクソ・スミスクライン社が企画した。	千日	6面	8.7
加齢	下着メーカー・ワコールの人間科学研究所が「加齢による体形変化の法則」を導き出した。腹部では「おへその周りが出る」「下腹全体が出る」「胃のあたりまで出る」の変遷を辿ると言う。ワコールでは1964年創始以降4万人以上の女性の体を測定し、同じ女性の時系列の変化も計測している。	読売	夕・2面	8.22
気管食道シャント法でカラオケ	声帯を含む喉頭を摘出した患者で構成されたNPO「悠声会」は気管食道シャント法の患者が中心となり、毎月2回カラオケなどで交友をしている。シャント法は弁の掃除の手間と月15,000～20,000円程度の管理費がかかるが、約9割の患者が日常会話が可能となる。	読売	23面	8.22
血栓塞栓症予防	国際血栓止血学会が7月下旬に京都市で開かれ、静脈血栓塞栓症（エコノミークラス症候群）予防に関する国際共同声明を採択した。	山日	7面	8.22
考古学	米スタンフォード大などの研究チームが現代の祖先が別の人類とされるネアンデルタール人やデニソワ人と交雑することで免疫機能を高めたことを発見し、米科学誌サイエンスに発表する。	読売	37面	8.26

口臭	日本私立歯科大学協会が10～70代の男女1000人を対象にネット調査を行ったところ、「口臭」の悩みを持つ人が42.7%と多かった。次いで「歯垢・歯石」が39.5%、「歯の黄ばみ」38.4%であった。10代では「歯のきばみ」、20代では「歯並び」、30代では「虫歯」、40代では「口臭」、50、60代では「歯垢・歯石・歯周病」の悩みをかかえる割合が大きいことも分かった。	山日	7面	8.22
サプリメント	長期サプリメント服用は薬用性肝障害を起こすことがある。原因となる健康食品で多いのはウコン、アガリクスである。前身倦怠感、食欲不振、発熱、かゆみなどの症状がでると肝炎型の可能性がある。	信毎	14面	8.5
歯周病	サンスターがネットで16～69歳1000人に調査したところ、歯周病の認知度は98.5%に達していたものの、歯周病と虫歯が別の病気と理解していた人は71.4%に下がることが分かった。	山日	9面	8.16
舌接触補助	昭和大歯科病院の口腔リハビリテーション科は舌がんで舌根元以外切除した女性に上あごと下あごの内壁を厚くするプラスチック製プレートを作製した。女性は胃ろう外せ、言葉の発音に障害は残るものの電話に出られるまでになった。上あごにはめるプレートは昨春から「舌接触補助床」として保険適用されている。	読売	14面	8.23
失語症リハビリ	失語症の患者が福島県郡山市総合南東北病院の外来でリハビリを受け、改善した。言語視覚士の指導により患者は筆談が要らなくなるまで回復した。	読売	16面	8.26
食事	発芽ブロッコリー摂取が肝臓の解毒作用を高める有効な方法の一つである。発芽ブロッコリーに含まれるスルフォラファンが肝臓の解毒酵素を活性化させ、肝障害を抑える。	産経	20面	8.22
食事	国立がんセンターが全国8県で45～74歳の男女約8万7000人を約10年間追跡調査したところ、食物繊維が脳卒中や心筋梗塞のリスクを減らす傾向にあることが分かった。ただし、喫煙者は食物繊維を多く摂取しても発症リスクは下がらなかった。	読売	15面	8.9
体内時計	産業技術総合研究所はパッションフルーツなどに含まれる有機化合物「ハルミン」に体内時計を遅らせる効果があることを発見し、英科学誌バイオサイエンス・レポートに掲載した。	読売	34面	8.18
発音補助装置	「スピーチエイド」と呼ばれる発音補助装置で軟口蓋に障害をもつ女子大生の発音改善した。「スピーチエイド」は口唇口蓋裂患者の発音障害の治療にも使用されている。	読売	16面	8.25
発達障害支援	都道府県などに設置されている発達障害者支援センターのひとつ、ひょうご発達障害支援センター「クローバー」が力を入れているのが「サポートブック」である。客観的に子どもを見つめなおす機会を与える。	読売	15面	8.2
慢性痛とQOL	腰など筋骨格系の慢性痛に苦しむ日本人は23%以上に上る。最も使用される薬は非ステロイド性抗炎症薬「NSAIDs」である。英国疼痛学会理事長は「NSAIDs」は長期・高用量服用すると胃や腎臓に副作用を生じるため、オピオイド鎮痛薬やアセトアミノフェンなど鎮痛薬の適正使用で、患者のQOL向上も可能と言う。	山日	9面	8.16
夜尿症	5歳過ぎても週3回以上、おねしょをする場合「夜尿症」という病気である。日本夜尿症学会理事長は5歳児で15%、10歳児で5%、成人でも0.5%程度の割合いがかかると言う。夜尿症は「多型尿」「ぼうこう型」「混合型」の大きく3タイプに分けられる。治療すれば自然治癒より早く治癒する。	山日	9面	8.16

図書紹介

東日本大震災	伊藤和明『地震と噴火の日本史』岩波新書 絶版	朝日	12面	8.14
東日本大震災	北原糸子『日本災害史』吉川弘文館	朝日	12面	8.14
東日本大震災	山本太郎『感染症と文明』岩波新書	朝日	12面	8.14
東日本大震災	立川昭二『病気の社会史：文明に探る原因』岩波現代文庫	朝日	12面	8.14
東日本大震災	吉村有昭『三陸海岸大津波』文春文庫	朝日	12面	8.14
東日本大震災	武田邦彦『放射能と生きる』幻冬舎新書 840円	河北	13面	8.22
火山と震災	鎌田浩毅『火山と地震の国に暮らす』岩波書店 1995円	朝日	12面	8.7
軍医と戦争	梶木蓬生『蠅の帝国』新潮社 1890円	東京	5面	8.6
基礎代謝	藤田恒夫、牛木辰夫『カラー版細胞紳士録』岩波新書 1000円	読売	14面	8.7
チーズの歴史	アンドリュウ・ドルビー『チーズの歴史：5000年の味わい豊かな物語』ブルース・インターアクションズ 1680円	朝日	12面	8.7
生物時間	本川達雄『生物学的文明論』新潮新書 740円	読売	12面	8.14

朝日新聞・毎日新聞 記事見出し一覧

東日本大震災	停電：人工呼吸器あと3時間：「もう死ぬのか」：仙台寝たきりの男性 消防に運び間一発	毎日	25面	8.22
東日本大震災	震災被災地ストレスケア：地方公務員も対象に：災害補償基金	毎日	6面	8.22
東日本大震災	「放射線」悩む教師：来春から中学理科教科書に復活：「学者でも分からぬことが多い」	毎日	1面	8.17
東日本大震災	被災地ボランティア：熱中症注意報	朝日	25面	8.2
東日本大震災	土のセシウム除去法開発：粘土少なければ有効：京都大	朝日	4面	8.17
官公庁	トンネルじん肺救済難航：建設業界反発：今国会法成立は微妙	毎日	5面	8.16
官公庁	原発症基準遠い決着：国は申請却下連発：不満積もる被ばく者	朝日	5面	8.6
大学・教育施策	患者からの暴力経験：看護学生6割 職員の2倍：「性的」4割超：筑波大調査	朝日	24面	8.22
大学・教育施策	国立大、3地域で連携：北海道・東海・関西の計18大学：事務協力や単位共通化	朝日	1面	8.20
大学・教育施策	大学生生き残りへ再編加速：鹿児島大・山口大 共同学部で「薩長同盟」：獣医学部、国際レベル狙う	朝日	23面	8.5
大学・教育施策	救急医育成へ：岡山大が拠点：10月に創設、人員倍増	東京	夕・9面	8.2

病院経営	人口半減 変わる病院：減る医師・病床、訪問看護始める：原発事故と地域医療	朝日	31面	8.30
病院経営	看護師集落へ出張：[2000年]鳥取県西部地震で被災 日野市「の取組」：通院難しい高齢者支援	朝日	4面	8.14
病院経営	医師不足：使命感頼りに限界	朝日	28面	8.9
再生医療	iPS細胞の精子で誕生：京大がマウス実験で成功：不妊の原因解明期待	朝日	1面・3面	8.5
産科・小児科	ポリオ予防接種低調：改良ワクチン待つ動き	朝日	5面	8.31
産科・小児科	自ら排卵誘発注射効果：通院減り副作用減：日産婦調べ	朝日	37面	8.25
産科・小児科	女性と病気：骨盤臓器脱：人工シートで補強手術	朝日	29面	8.25
産科・小児科	女性と病気：子宮のこぶ：人生設計に合う治療選択[子宮筋腫]	朝日	30面	8.7
産科・小児科	子の腸SOS気づいて：腸重積症、[日本小児救急医]学会が診断・治療の指針	朝日	37面	8.6
感染症	新型インフルの行動計画改定へ：毒性ふまえ対応	朝日	31面	8.16
感染症	手足口病が大流行だって？：西日本を中心に広がった。手洗いをしっかりね。	朝日	2面	8.11
治療・治療薬	関節リウマチ治療薬の投与量上限引き上げ：厚労省	毎日	11面	8.16
臓器移植	臓器提供：進まぬ検証：改正法1年不十分な情報公開	朝日	27面	8.2
情報科学	仮説生活IT支援の輪：PC教材入手 ネット宅配 遠隔医療	朝日	夕・11面	8.31
情報科学	緊急地震速報的中増えます：気象庁がシステム改修：3割強 6割強	朝日	29面	8.16
情報科学	毎日6ページ：朝日新聞デジタル：地域発よりどり全国版：[デジタルコンテンツの目玉として朝刊に全国の話題が掲載されている「地域発」面がある]	朝日	34面	8.11
遺伝子・医工学	一分で知る豆医学：大腸 感染防ぐ腸内細菌	朝日	31面	8.30
遺伝子・医工学	脅威ふるった食中毒の原因菌：山本達男・新潟大大学院教授が撮影	朝日	27面	8.25
遺伝子・医工学	慢性アレルギー 反応の仕組み発見：理科大教授ら：[たんぱく質TSLPが好塩基球の働きを引き出す]	朝日	33面	8.16
遺伝子・医工学	「内耳」形作る遺伝子特定：神戸大チーム	朝日	16面	8.11
症状相談	膀胱炎を繰り返す	朝日	31面	8.30
症状相談	翼状片：[右目の黒目に白目が入りこむ症状]	朝日	27面	8.2
症状相談	爪：全身の健康映す鏡	朝日	27面	8.2
症状相談	足のむくみ：10分足上げ・自転車こぎで改善	朝日	夕.5面	8.1

読者投稿	瓶の胎児：孫世代の現実：枯れ葉剤いまも：米軍使用から50年[ベトナム戦争]	朝日	2面	8.29
読者投稿	電子化でも血の通った診療を（地域公務員）	朝日	12面	8.29
読者投稿	医薬品卸の役割：震災で認識（東邦ホールディングス社長）	朝日	8面	8.23
読者投稿	発達障害こう生きている：「異文化」と認めてもらえれば（20代・女性）	朝日	21面	8.25
読者投稿	発達障害こう生きている：対人関係 友達が教えてくれた（30代・男性）	朝日	21面	8.25
危機管理	震災関連死：介護施設に発電機と備蓄を	朝日	11面	8.16
ミス・事件・訴訟	急性白血病で作業員が死亡：福島第一原発	朝日	38面	8.31
ミス・事件・訴訟	同じミス反復の医療事故が245件：医療評価機構まとめ	朝日	37面	8.31
ミス・事件・訴訟	ストロンチウム魚から微量検出：福島沖	朝日	38面	8.31
ミス・事件・訴訟	東北4県の15人から赤痢菌：14人は同一チェーンで食事	朝日	38面	8.31
ミス・事件・訴訟	熱中症4万人超す	朝日	38面	8.31
ミス・事件・訴訟	禁煙補助剤副作用か：車運転中意識失う例も[薬名：チャンピックス]	朝日	38面	8.31
ミス・事件・訴訟	患者850人の情報 男性医師が紛失：千葉県精神科医療センター	朝日	京葉版	8.30
ミス・事件・訴訟	産科事故15件分析「心拍監視不十分」8件	産経	22面	8.23
ミス・事件・訴訟	患者からの暴力経験：看護学生6割 職員の2倍：「性的」4割超：筑波大調査	毎日	24面	8.22
ミス・事件・訴訟	C型肝炎の院内感染は否定：[骨髄バンクから骨髄を提供された30代男性が急性C型肝炎を発症。骨髄移植推進財団、調査の結果、骨髄を採取した病院での院内感染を否定した]	朝日	31面	8.16
ミス・事件・訴訟	イレッサ訴訟で訓告の[医薬食品]局長辞職：厚労省	朝日	31面	8.16
ミス・事件・訴訟	[埼玉]和光[市]：病院内、少女触った疑い：整形外科医逮捕、否認：[独立行政法人国立病院機構埼玉病院]	東京	29面	8.14
ミス・事件・訴訟	患者からインスリン：容体急変、警視庁捜査：都立病院	朝日	33面	8.5
医学・医療一般	長寿世界一日本に警鐘：英医学誌「喫煙対策が不十分」	朝日	夕・2面	8.31
医学・医療一般	月面にピザ屋：建設費は1兆6700億円：見積みり依頼のドミノ・ピザ「思ったより安かった」	朝日	夕・11面	8.31
医学・医療一般	日差しあふれる霊安室：「死に方」問われる時代	朝日	19面	8.31
医学・医療一般	「異常なし」過去最低の8.4%：人間ドック受診者ストレス影響	朝日	38面	8.21
医学・医療一般	血液型と性格は関係あるのかな？：科学的な証拠はない。海外では関心が薄いんだ	朝日	2面	8.14

医学・医療一般	ヒバクシャ文学：原爆と3.11体験を包括	朝日	11面	8.7
医学・医療一般	動機付けでダイエット成功：講義、教材で「生活見直し」・・・半年で5キロ減：[減量はお金をかけなくとも日ごろの暮らしを見直すことが重要]	毎日	夕・12面	8.4
医学・医療一般	食物繊維摂取で循環器病予防：喫煙者は効果薄く・・・：[厚労省研究班調査]	東京	夕・8面	8.4
医学・医療一般	脳血栓 夏も要注意：4万人分析「水分こまめにとって」	朝日	37面	8.3

凡例 1．信毎：信濃毎日新聞 千日：千葉日報 長日：長野日報 山日：山梨日日 なのはな：なのはな同窓会報 河北：河北新報 夕：夕刊(その他の無記載は朝刊ないし日刊) 2．著作権上、新聞記事の見出しと異なる見出しの場合は、印の後に記載しております。 3．掲載見出しに補足した場合、補足部分を[]で記載しております。 4．読売新聞、産経新聞の見出しは著作権等があり掲載記事の見出しとは異なるように配慮しております。 5．日本経済新聞、秋田さきがけ、河北新報の記事は著作権等があり掲載しておりません。 6．同一記事が複数の新聞で報道されている場合、可能な限り、最も詳しい内容ないしは早い日付で報道されたものを掲載するようにしております。また、著作権を問題としない商業紙を優先し掲載しております。 7．図書紹介は、単なる広告ではなく、読後の解説評論があるものを掲載してあります。 8．編集用の商業紙記事は、IT事業予算や編集者の努力の関係で集積してありますので、全記事を網羅しておりません。御容赦ください。読売新聞が朝刊と時に夕刊、その他の新聞は、購入可能な際入手しての記事のピックアップです。